

Gpress

せたがや

GpressのGは愛称「げんき」のGです。

第18号

2013年
12月20日発行

「ジープレスせたがや」
業務受託 社会福祉法人 嬉泉

大人を困らせる行動の多い子ども。
実は、子ども自身が一番困っているのかもしれない。

～子どもの立場から行動を考える～

先生の言っていること
よくわからないよ。

人が多くてざわざわ
しているのが、イヤ。

やりたいけど、できない。
やーめた。

世田谷区発達障害
相談・療育センター
って どんどころ？

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様に、発達障害について理解してもらうための活動をしています。

まずは
お電話
ください

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方を対象としています。

03-5727-2236 (「げんき」相談専用番号)

発達障害Q&A

よく寄せられるご質問から

Q2 発達障害は治りますか？

A2 発達障害は生まれつきの特性が、年齢とともに様々な症状を現していきます。すべての症状をなくすことは難しいと思います。また、同じ症状であってもいつも同じ対応でよいというわけではありません。治療や療育は発達状況や環境にあわせてそれぞれの段階に応じて行われますが、その人なりの成長・発達が必ずあることを認識していただきたいと思います。

発達障害は見た目でわかりにくいといわれます。

「〇〇がこんなにできるのに、なんでこれが全くできないの？」というように機能にアンバランスがあります。そこから生じる社会の中での困った行動を、本人の頑張りや親のしつこいなどでなんとかするべきという周囲の見方が、ただでさえ誤解や偏見を受けやすい本人や家族をさらに追いつめていくことにもなりかねません。「発達障害だからトラブルを起こす、仕方がない」と簡単に考えず、理解しづらくかもしれませんが、長い目で見守り、サポートして頂きたいと思っています。

回答者

世田谷区発達障害相談・療育センター診療所長
山崎晃寛(医師)

世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」

開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時～午後6時

利用方法

利用は予約制です。利用を希望される方は、世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」へお電話にてお申し込みください。

所在地・連絡先

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3階
TEL 03-5727-2235 (代表)
03-5727-2236 (相談専用)
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

業務受託：社会福祉法人 嬉泉

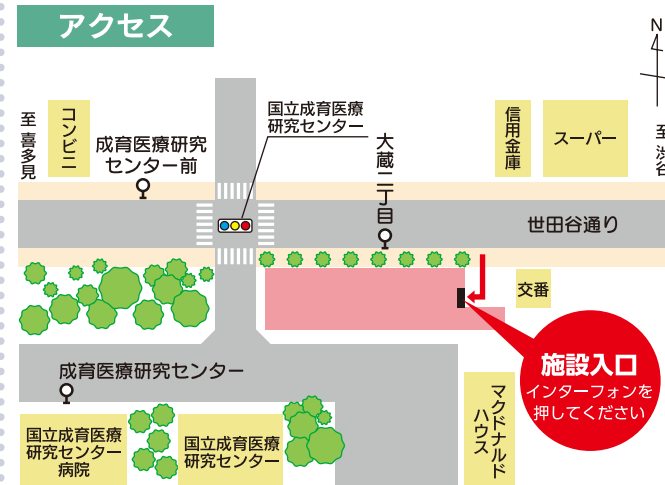
〒156-0055 世田谷区船橋 1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>

編集後記

つい大人の目線や都合で考えてしまいがちですが、子どもたちの困った行動は、子ども自身が感じる困難さや考えが背景になっていることがあります。子ども自身もそのことをどう伝えればいいのかかわからないことも多く、どうしてこの行動をしているのか、なかなか周囲から理解されません。子どもの事情や気持ちをくみ取り、代弁し、周囲の方の理解につなげていくことも、私たちの大切な仕事と考えています。

今年度から紙面の雰囲気が変わったとの声も頂いていますが、いかがでしょうか。これからも、多くの方の発達障害理解のため、より見やすい紙面づくりに努めていきたいと思っています。

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

東急バス・小田急バス

(渋24) 成城学園前駅 ↔ 渋谷駅

東急バス

(都立01) 成城学園前駅 ↔ 都立大学駅北口

(等12) 成城学園前駅 ↔ 等々力操車所

(用06) 成城学園前駅 ↔ 用賀駅

小田急バス

(渋26) 調布駅南口 ↔ 渋谷駅

東急コーチ

(玉31・32) 二子玉川駅 ↔ 成育医療研究センター

渋谷方面行きのバスにご乗車の場合は「成育医療研究センター前」で下車。東急コーチ、成城学園前駅行き、調布駅南口行き方面のバスにご乗車の場合は「大蔵二丁目」で下車。

※専用駐車場はありません。

子どもの立場から 行動を考える

① 幼児編

先生の困りごと…

5歳のAくん。集団活動の時間になり、ルールの説明を聞いて活動を始めても、しばらくすると違う遊びを始めたり、注意してもまた同じことをするので、対応に困っています。

「今はこの遊びをする時間だよ」とか「先生はこの行動はしてほしくないな」などと声をかけるのですが、なかなかうまくいきません。



つまんない。

人が多くてざわざわしているのが、イヤ。

やりたいけど、できない。
やーめた。

先生の言っていること
よくわからないよ。

待てられないや。



子どもたちの行動にはその子なりの理由が必ずあります。同じ行動をしていても、その理由は一人一人異なります。対応の仕方、その時々の子の気持ちや行動の理由を考えながら対応していくことが必要です。すぐには理由がわからないこともあるかもしれませんが、子どもたちのことをわかって、理解しようとしている気持ちが子どもたちに伝わります。

関わり方のヒント

Aくんの行動の背景にある事情に 目を向けてみましょう

Aくんは、集団活動に参加するつもりでそこにいるのかもしれませんが、もしかしたら説明を聞いてもよくわからなかったり、活動をやってみたものの何かうまくいかないと感じてしまうことがあり、嫌になってしまったのかもしれません。また、たくさん人がいるようなざわざわした状況が苦手なのかもしれません。

Aくんに注意しても、Aくんの目線に立ってみると、Aくんなりの理由があり、いけないことをしているという意識がなかなか持てないのかもしれません。

Aくんの事情への具体的な対応を 考えていきます

Aくんに、どのように伝えたとわかってもらえるのでしょうか。実際にやって見せてみる、ルールを目につくところに書いておく、端的な言葉で伝えるなど、活動の内容やルール説明などの伝え方を工夫してみましょう。まずは、大人の手助けを受けながら、自分なりに“わかった”“できた”という経験を積むことが大切です。

また、してほしくない行動については、今何をすればいいのかわかるように、「こうするといいよ」という具体的な行動を伝えてみましょう。そして、ざわざわした状況が苦手なら、Aくんの苦手な刺激を減らせるように可能な範囲で環境を整理してみましょう。

「げんき」からのメッセージ

子どもの困った行動には、年齢相応の行動もあれば、上手な対応で「困った」行動にならずにすんでいくこともたくさんあります。子どもへの関わりがストレスや不安になっているとき、頑張ってもなかなかうまくいかないときには、一人で抱えてしまわず、専門の機関を利用するのも一つの手です。「げんき」でもご相談できますので、ご利用ください。

「げんき」相談専用電話 03-5727-2236